

特集:手足口病(第43週までのまとめ)

手足口病の定点当たり報告数は第28週(7月11日～7月17日)に12.68となり、昭和57年に感染症発生動向調査が開始されて以降最も高くなりました。第28週のピーク後も過去5年平均値に比べ報告数が高い状態が続いています。例年、報告数が低下する第43週においても、定点当たり報告数は0.69(27例)で、過去5年平均値(0.18)を大きく上回りました。

手足口病の原因ウイルスは、コクサッキーAウイルス16型(CA16)とエンテロウイルス71型(EV71)が代表的ですが、本年はCA16、EV71は分離されていません。7月まではコクサッキーAウイルス6型(CA6)が主流で、8月にコクサッキーAウイルス10型(CA10)、コクサッキーBウイルス4型(CB4)などが、9月にはコクサッキーBウイルス3型(CB3)、CB4が分離されています。

CA6は、昨年まではヘルパンギーナ、かぜ症候群から多く分離されてきたウイルスですが、本年は、手足口病(27件)、かぜ症候群(15件)、ヘルパンギーナ(8件)、その他(2件)から分離されています。

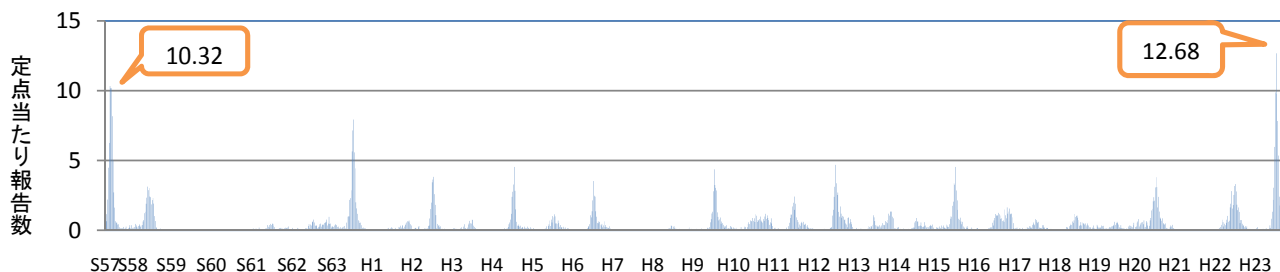
第43週までの年齢階級別の累計では、1歳以下が42.4%で、過去5年平均値(31.7%)に比べ多くなっています。

また、本年の手足口病は、従来の典型例と比べ、1)発疹の出現部位が異なり、2)水疱は扁平で臍窩を認め、しかもこれまでより大きいこと、の2点が特徴と考えられています。

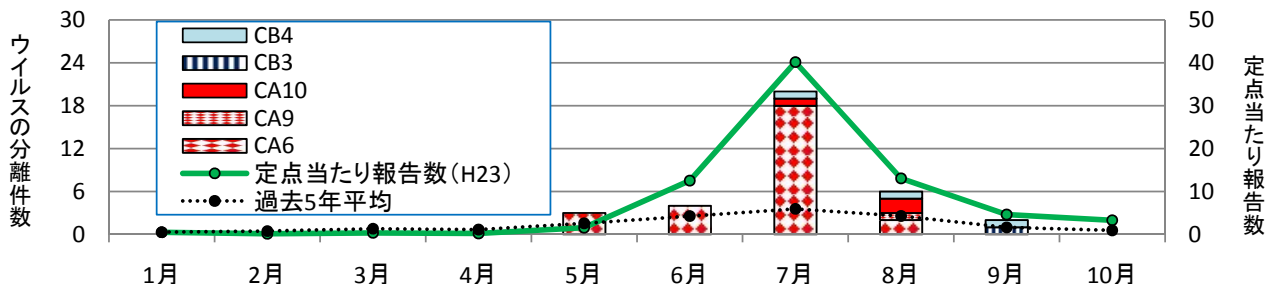
○手足口病, CA6については、以下のホームページをご参照ください。

・国立感染症研究所感染症情報センター病原体分離情報(IASR)速報記事(ウイルス)－エンテロウイルス
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/index-kv.html>

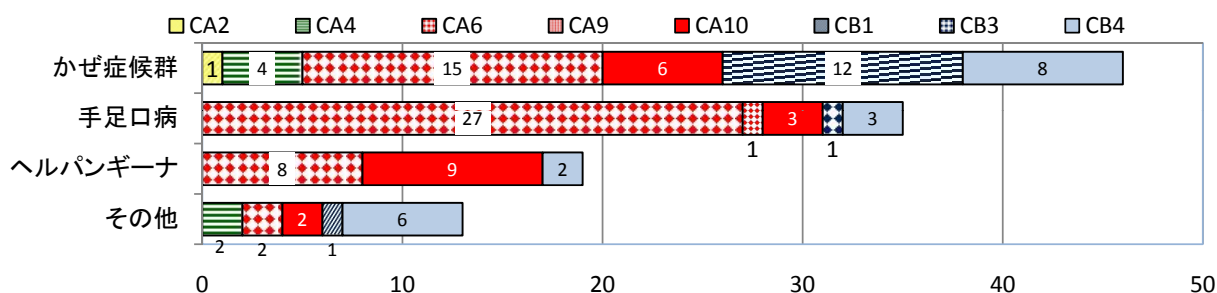
昭和57年以降の定点当たり報告数の推移(平成23年第43週まで)



手足口病から分離されたコクサッキーウイルス及び定点当たり報告数の月別推移



疾患別のコクサッキーウイルスの分離件数



年齢階級別割合

■ ~5箇月 ■ ~11箇月 ■ 1歳 ■ 2歳 ■ 3歳 ■ 4歳 ■ 5歳 ■ 6歳 ■ 7歳 ■ 8歳 ■ 9歳 ■ 10歳- ■ 15歳- ■ 20歳以上

